

# 平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(西部クリーンセンター)	所管	環境クリーン部 西部クリーンセンター 施設課
			TEL 2948-3141

事業の目的 (何の為に 行うか)	廃棄物の適正な処理を行うため、適切な維持管理に努め環境負荷の低減を図る。
------------------------	--------------------------------------

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	所沢市民と事業者から排出される「燃やせるごみ」	対象とした数	90,192	t
		実際に 利用した数	37,420	t

活動の内容 (何を したか)	燃やせるごみの搬入→焼却処理(ごみの減容化)→排ガス処理(集じん器、薬剤処理等)→排ガス⇒大気放出→灰(焼却残渣)の排出⇒有効利用及び埋立処分							
	活動実績	項目名	焼却量	37420	項目名	ダイオキシン類測定結果(排ガス)	項目名	ダイオキシン類測定結果(排ガス)
			単位 t			単位 ng-TEQ		単位 ng-TEQ

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	740,666	727,789	810,926	2,391.7

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	ダイオキシン類測定結果(排ガス)	国の基準 TEQ/m3N以下 0.1ng- TEQ/m3N以下	5ng- 自主基 0.1	0.1	100.0
			単位 ng-TEQ	単位 ng-TEQ	単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 [ ]				
		終了 ⇒ 事業完了	終了	休止		
	予算	現状どおり	* 増額	減額	終了	

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合評価	拡充 縮小 統合	改善・効率化	改善余地なし	その他 [ ]	終了
	予算	現状どおり	増額	減額	終了	

# 平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当	部課コード	051000	TEL	2948-3141
事業コード	051002	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(西部クリーンセンター)	環境	クリーン部	西部クリーンセンター	施設課
開始年度	昭和 46 年度	→	終了年度	平成 年度		
グループ		施設グループ				

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令			
	分野別計画・指針	所沢市一般廃棄物処理基本計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律・所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例			
	関連・類似事業	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(東部クリーンセンター)						
	総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル	中柱	2 適正処理の拡充	小柱
・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位		・実施計画における位置づけ…		H19	<input type="radio"/> H20 <input type="radio"/>			
行政改革大綱における行動計画への位置づけ								
コード	3261	事務事業見直しの推進	コード	1111	市民の知りたい情報の提供			
事業開始の背景	増加するごみ量に対して、適正処理を行う必要があり、そのままの埋立処分は困難であるため、焼却処理によるごみの減容化、安定化を図る必要があった。							

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	廃棄物の適正な処理を行うため、適切な維持管理に努め環境負荷の低減を図る。						
	対象(誰を、何を対象としているのか)	所沢市民と事業者から排出される「燃やせるごみ」		利用数の考え方 西部クリーンセンターの年間焼却量				
	対象数	単位	平成 18 年度	94,926	t	平成 18 年度	40,555	t
			平成 19 年度	90,192	t	平成 19 年度	37,420	t
事業の具体的な内容及び実施方法								
燃やせるごみの搬入→焼却処理(ごみの減容化)→排ガス処理(集じん器、薬剤処理等)→排ガス⇒大気放出 →灰(焼却残渣)の排出⇒有効利用及び埋立処分								

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	《 最終評価 <input checked="" type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 <input type="checkbox"/> 》				
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )				
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
平成19年度中に改善した点						
触媒の交換再生処理を行い、有害物質の発生抑制を図った。						

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	
	当初予算		717,987	740,666	774,532	
	決算(見込み含む)		708,296	727,789		
	(嘱託職員) (臨時職員)	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	正規職員人件費		3.85 人	35,420	8.85 人	83,137
	公債費					
	事業費合計		743,716	810,926		
	財源内訳	一般財源	743,716	810,926	774,532	
		国・県支出金				
		受益者負担金				
	市債					
	その他					
市民一人当たり(単位:円)			2,201.1	2,391.7		
利用数一単位あたり(単位:円)			18,338.5	21,670.9		

※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑥指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	焼却量	年間焼却量	t	40,555	37,420	
		ダイオキシン類測定結果(排ガス)	上半期	ng-TEQ /m3N	A系0.0021 B系0.000039 C系0.0020	A系0 B系0.000086 C系0.0013	
		ダイオキシン類測定結果(排ガス)	下半期	ng-TEQ /m4N	A系0.000097 B系0.000065 C系0.0011	A系0.000051 B系0.000065 C系0.00096	
成果分析	国の基準	5ng-TEQ/m3N以下	自主基準	0.1ng-TEQ/m3N以下			
	目標値	0.1	実績	0.1	0.1	0.1	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2
	達成率	100.0		100.0			2

評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 市及び委託業者 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
明らかとなった課題	機械設備の維持管理や有害化学物質低減のための排ガス処理施設に多額の経費がかかることは避けられないが効率のよい維持管理を行い、安全な焼却処理を行う。焼却施設は平成元年に稼働を開始し、平成13年に排ガス高度処理施設改造工事が完成し、稼働後20年になり、今後の施設整備計画の検討をする。		

⑦一次評価	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)
	平成20年度における目標設定 東部クリーンセンターと焼却運転の調整を図りながら、計画的に施設の修繕等を行う。	焼却運転に支障を与えないようにする。	年度内

平成21年度における事業の方向性	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] )
予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了
評価理由	
市民等が排出するごみは、リサイクル等を行い抑制を図りつつも、現状では東西のクリーンセンターで焼却処理を行う必要がある。予算については、環境に配慮した焼却を継続するために、施設の老朽化とともに維持管理経費の増加が見込まれる。	
評価日	平成20年5月8日
記入者職氏名	施設課長 山下菊雄

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [ ] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由							
⑨評価	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	
		見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
		評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ…有り		計画コード	323
⑨個別計画における方向性	3-2資源循環の促進	3-2-3廃棄物の適正処理	施策の方向	
◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ…無し		計画コード	
基本目標				
主要課題				
施策の方向				